

碧 M 企画

健康経営コンサルタント

Smiles invite happiness



Aoi TOPIX

2021.1.4 Vol 19

ピュシスとロゴスのバランスで未来を創造する【世界共通の課題】

新年を迎え未だに新型コロナウイルスの脅威に振り回されながら私たちは過ごしています。昨年、分子生物学者の福岡伸一教授が発表した「ピュシスとロゴス」に関する寄稿が話題となり、私も深く興味を抱き教授の寄稿を拝読しました。その中で教授はこのように述べています。「**コロナウイルスは、“自然”からどんどん乖離していく人間の“文明”の行き過ぎを警告しています。**」

今回は、その寄稿を参考に健康経営の専門家である立場から「健康維持・増進」の視点で、“ピュシス”と“ロゴス”のバランスをテーマに今年最初の「Aoi TOPIX」にまとめました。

1.“ピュシス”と“ロゴス”のバランス

古代ギリシャ語でピュシス(physis)とは「自然」のこと、ロゴス(logos)とは言語や論理のことを意味します。

地球上の生物の中で人類だけがロゴスを手に入れピュシスから抜け出し、人間に都合のいいように自然を利用しながら環境をコントロールするため、言葉やロジック、アルゴリズム、テクノロジーなどを生み出して、文明社会を築いてきました。

福岡教授は「**人間は、“ロゴス”と“ピュシス”の両方を内に抱えた生き物である**」と表現しています。

具体的には、人間は地球上の生命体としてピュシスとして生きている。「ピュシスを前提とした生物の遺伝子は、種の存続だけを至上命令として生きるようにプログラムされている」と説明しています。一方で、「ピュシスの原理から離れ、ロゴスの力を借りて、法やルールを整備し、産業を興し、効率性や生産性を高めていく存在でもある。」と述べています。

つまり、私たちは“ピュシス”と“ロゴス”のバランスの中で生きていると言えるでしょう。



経済振興を優先するがゆえの森林の伐採、無秩序な都市開発、海洋資源の乱獲といった自然環境の破壊は、地球の温暖化や異常気象、食料不足による飢餓問題などが国際社会の課題となり、国連が2030年を目途に「SDGs:持続可能な開発目標」を掲げ“ピュシス”と“ロゴス”のバランスを整え持続可能な未来を創造する活動を始めています。

2. 利他性と文明国家

利他とは、辞書によると「他人に利益となるように図ること。」「自分のことよりも他人の幸福を願うこと。」と説明されています。

新型コロナウイルスの発生源となった武漢で、都市が封鎖されパンデミックによる死者が急増する中、利他性について私たちに訴えた人がいました。

中国・武漢在住の小説家、方方氏(Fang Fang:ファンファン)が60日間に渡る都市封鎖の体験をブログで発信して、世界中の人々が方方氏の語った利他性について心を揺さぶられました。私もその一人ですが、方方氏はブログでこのように記しています。「一つの国が文明国家であるかどうかの基準は、高層ビルが多いとか、クルマが疾走しているとか、武器が進んでいるとか、軍隊が強いとか、科学技術が発達しているとか、芸術が多彩とか、さらに、派手なイベントができるとか、花火が豪華絢爛とか、おカネの力で世界を豪遊し、世界中のものを買いあさるとか、決してそうしたことがすべてではない。」「基準はただ一つしかない、それは弱者に接する態度である」



「ある国の文明度を測る唯一の基準は、弱者に対して国がどういう態度を取るかだ」と訴えていました。

新型コロナウイルスの感染拡大は、私たちにロゴスが作り上げた文明の在り方を「利他性」をテーマに再考する機会を与えてくれたように感じます。



その武漢でウイルス研究を進めていた中国とそれを資金援助していたアメリカがワクチン開発の覇者となりましたが、皮肉な事にこの2国は異なる道を歩むことになりました。アメリカは自国の感染者の救済を優先する道を歩み、中国は、他国へ向けて歩み出し世界の注目を「健康シルクロード」に向けるため、世界の技術大国かつ公衆衛生の擁護者として自らを「リブランド」する道を選択して歩んでいます。

これに成功すれば、一流の技術大国という名声に加えて、中国は、途上世界のパートナーとの友好関係を強化し、「グローバルリーダー」の称号への国際的支持を得ることになるでしょう。この2つの大国が文明国家であるならば、ワクチンは弱者の救済に役立つ方向で提供されるでしょう。

複数のコミュニティの中で生きる私達にとって利他性という言葉は、人の在り方を示す一つ概念として心に響きます。他人の喜びを自分の喜びに変えることが出来る理性によって成り立つ思考であると思います。したがって方方氏が訴えた基準は、誰もが納得するものであると感じます。

3. ディーセント・ワークとサステイナブル

ディーセント・ワークとは、「働きがいのある人間らしい仕事」のことで、ILO(国際労働機関)がそれを提唱し、「全ての人にディーセント・ワーク - Decent Work for All-」の実現を目指して活動を展開しています。

ディーセント・ワークを具体的に説明すると「権利が保障され、十分な収入を生み出し、適切な社会的保護が与えられる生産的な仕事を意味します。それはまた、全ての人が入入を得るのに十分な仕事があることです。」言い換えれば、「働きがいのある人間らしい仕事」とは、まず仕事があることが基本ですが、その仕事は、権利、社会保障、社会対話が確保されていて、自由と平等が保障され、働く人々の生活が安定する、すなわち、人間としての尊厳を保てる生産的な仕事のことで



現在日本では、新型コロナウイルスの脅威に曝されながら働いているエセンシャル・ワーカーの保証が社会的な問題となっています。新型コロナウイルス感染者を受け入れている一部の医療機関では、医療がひっ迫する状況で過酷な労働環境にありながらも政府の保証が十分ではないと感じます。

年未年始に都市部を中心に感染が増加している状況では、十分な国の保証がなければ、あの武漢同様に「文明国家の基準」を満たすことは困難であるように感じます。

日本は“ピュシス”と“ロゴス”のバランスを整え、先進国の中で唯一「高齢化社会」の在り方を示すモデルとなっている国です。

疾病に罹患した弱者である人々が適切な医療を受けるためには、エセンシャル・ワーカーのディーセント・ワーク実現が不可欠であることは誰でも理解できることだと感じています。

加えて個人も傍観者ではなく、SNS を活用し自身のヘルスリテラシー向上を目指した行動が必要と思われる。具体的には「自分自身を疑う」という知的な態度がヘルスリテラシーを向上させるカギと言えるでしょう。ネット上で拡散している情報の中からエビデンスのある情報を得て新型コロナを「正しく恐れる」という思考を持つことが重要でしょう。

我々がサステイナブルな社会を実現するには“ピュシス”と“ロゴス”の2つの均衡と平衡を考えた術を持つことが長いトンネルを抜ける唯一の策だと思います。

碧 M 企画の基本サービス

産業医や健康保険組合と連携して、企業の健康的な働き方を以下のサービス内容で提供します。



ヘルスケアサポート、健康経営サポート、雇用管理改善サポート

碧 M 企画

代表：渡嘉敷 忠 産業看護職（看護師）

健康経営エキスパート・アドバイザー（東京商工会議所認定）認定番号：19000749

ストレスチェック実施者（厚生労働大臣指定研修受講）

第1種衛生管理者

電話：080-9851-1569

URL: <https://www.aoi-mk.com/>

